



TAFS 研究発表会



1. 研究発表会とは

TAFSの行事の一つで、農業のスペシャリストを養成するため一年間の学習の成果を発表または見学することにより、次年度に向けた探究活動を充実させるためのものである。

主に口頭発表とポスター発表の二種類が行われ、その中の一部を口頭発表とし、そのほかの発表をポスターで簡潔に伝えるものである。

※ここに掲載されているものはたくさんある発表の中で私たちが見て、それぞれ印象に残ったものを載せています。

第一研究群

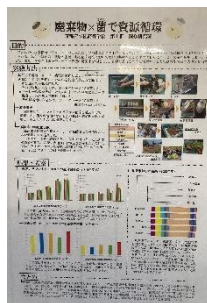
口頭発表 廃棄物×菌(きのこ)で資源循環

内容

京都市はコーヒーの一人あたりの消費量が全国一位を記録するほどの都市です。

最近、そのコーヒーから出るコーヒー残渣の廃棄を少しでも防ぐため、この廃棄物を再利用できないかと実験を重ねた結果、きのこの栽培が可能であると明らかに。

きのこ班が立ち上がり、コーヒー残渣を有効活用するために取り組みを始める。



第二研究群

ポスター発表 仁和寺伝統の桜を伝えていくために

内容

創設888年、真言宗御室派総本山の寺院「仁和寺」。

仁和寺は桜の名所としても有名で、その中でも、泣き桜(陽道桜)、御衣黄、御室有明の三つの特別な桜がある。

桜班はその三つの桜の大量増殖を目指して、この三品種の茎頂培養に適した培地の組成の調査を行った。



第三研究群

口頭発表 「かめまるいも」の効率的な栽培方法の研究

内容

亀岡市が特産品にしようとしている「かめまるいも」。「亀岡の特産物を考える会」と連携し、効率の良い栽培方法の研究に取り組んでいる。この会から、「年々収穫したイモの褐変率が低くなった」との話が。この話に基づき、収穫したイモの褐変の関係を調査することになった。



第四研究群

ポスター発表 種子繁殖系イチゴの育苗に関する研究

～よつばしの発芽に関する培地試験～

内容

現在日本で生産されているイチゴのほとんどは、地面に伸びたツル(ランナー)から子苗を増殖させる栄養繁殖と呼ばれる繁殖方法だった。親と一緒に遺伝子をもつので均一な苗を容易に得ることができた。

だが、親株が病害虫やウイルスに感染していると子苗にも伝染しやすく、全体に被害が発生してしまう危険性が起きる。

それを解決するため、今回栽培試験に供試した「よつばし」を使い対策に挑んだ。

